

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名： 東京医科大学病院 精神科専門医研修プログラム
- プログラム担当者氏名： 市来 真彦
住 所： 〒 160 - 0023 東京都新宿区西新宿 6 - 7 - 1
電話番号： 03 - 3342 - 6111
F A X： 03 - 3340 - 4499
E-mail： ichiki@tokyo-med.ac.jp

- 専攻医の募集人数： (13) 人

- 応募方法：
履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。
宛先： 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6 - 7 - 1
東京医科大学病院 メンタルヘルス科
市来 真彦
TEL：03-3342-6111 (代表)
FAX：03-3340-4499 (直通)
担当者：市来 真彦

- 採用判定方法：
主任教授、准教授、プログラム担当者が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念 (全プログラム共通項目)
精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。
2. 使命 (全プログラム共通項目)
患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。
3. 専門研修プログラムの特徴
本施設群は東京医科大学病院メンタルヘルス科を基幹施設とするプログラムであり、15の施設群から成り立っている。
研修基幹病院は東京都新宿区にある東京医科大学病院メンタルヘルス科である。都心に位置する特定機能病院として、質量ともに充実した診療を行う。主要な疾患の患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法、電気けいれん療法の基本を学ぶ。更に、思春期症例、人格障害、身体合併症、コンサルテーション・リエゾン精神医療の症例は豊富であり、特殊な領域(睡眠障害、措置入院)以外幅広い臨床経験ができる。また、研究・学会発表についても指導を受けることができ、学位取得を奨励し

ている。教育にも力を入れており、専攻医のみならず、臨床研修医、臨床実習学生を含めた屋根瓦式のシステムを構築している。

成仁病院は、急性期精神疾患の集中医療と早期退院に特化したスーパー救急病棟を持ち、電気痙攣療法の症例も多い一方、地域医療も多角的に展開している。また、東京医科大学社会人大学院にて学位を取得することも可能である。

睡眠ケアクリニック代々木・同第二は、睡眠障害クリニック（入院は全て1泊の検査入院）である。主たる障害は基幹病院ではカバーできない領域の睡眠障害である。年間外来患者数、入院患者数ともに2000例を超えており、睡眠障害全般を習得できる。基幹病院で研修中にも、希望により週1回のパート勤務が可能である。

立川メディカルセンター柏崎厚生病院、三川病院、富士心身リハビリテーション病院、丸山荘病院、日本平病院、前沢病院、川口会病院はそれぞれ地域に密着した病院であるとともに、措置入院の受け入れも積極的に行っている。これらの施設に、基幹病院に在籍する1～2年目に週1回のパート勤務をすることができる。それにより、基幹病院でカバーしきれない領域（地域連携など）の経験を積む。また、3年目に常勤医として出張することもある。基幹病院で経験できない措置入院の症例を経験することにより、精神科専門医だけでなく精神保健指定医の症例に事欠くことはない。

協和病院、西八王子病院は、措置入院の受け入れこそやっていないが、上記の病院群と同様地域に根差した病院であり、基幹病院在籍中に週1回のパート勤務をすることができる。また、基幹病院と地理的に近く、患者の紹介逆紹介を積極的に行っている。

立正佼成会附属佼成病院は、東京都杉並区の中でも高齢者の多い地域にある総合病院であり、総合病院の中にある精神科として、他診療科、地域の医療機関や施設と連携し、身体的治療や看護、介護などとの兼ね合いを重視し、こころと体の健康の支えとなることを目指している。精神科病床はなく、外来診療とコンサルテーション・リエゾン精神医療が主たる業務である。このような環境の中で、特に老年期の精神医療やコンサルテーション・リエゾン精神医療を中心に、無床総合病院精神科において精神科医が担う役割について学ぶことができる。

東京医科大学茨城医療センターと八王子医療センターはそれぞれ地域の大学病院として、地域医療に貢献している。両院ともに精神科病床はなく、外来診療とコンサルテーション・リエゾン精神医療が主たる業務である。

典型的なローテーションパターンとしては、1～2年目に基幹病院に在籍し、週4～5日の日勤及び週1回程度のオンコール業務につく。また週1日の研究日にパート勤務を認めており、上記の連携病院のいずれかに勤務する。3年目以降に連携病院をローテーションして研修する。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1658	2787
F1	408	224
F2	2797	1808
F3	4683	913
F4 F50	2302	244
F4 F7 F8 F9 F50	1438	377
F6	269	123

その他	341	81
-----	-----	----

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：東京医科大学病院
- ・施設形態：大学病院
- ・院長名：土田 明彦
- ・プログラム統括責任者氏名：井上 猛
- ・指導責任者氏名：市来 真彦
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(27) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	378	32
F1	74	9
F2	756	63
F3	1544	72
F4 F50	968	18
F4 F7 F8 F9 F50	111	5
F6	152	15
その他		

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当院は 2016 年に創立 100 周年を迎え、都心に位置する特定機能病院として、良質で高度な医療を提供することを使命としている。標準治療はもとより、新規医療技術の開発や種々の臨床研究を積極的に行っている。また、「チーム東京医大で安心・安全な医療の提供」をテーマに、医療安全とインフォームドコンセントを徹底することで、患者さん中心の医療と信頼関係の構築を心がけている。

メンタルヘルス科の診療は、メンタルヘルス科病棟、メンタルヘルス科外来、コンサルテーション・リエゾンサービスの 3 つの柱に分かれている。

- ・当科病棟には 27 床の閉鎖病棟を持ち、約 15 人/月の新入院患者を受け入れている。薬物療法、精神療法、環境調整が治療の主体であるが、治療抵抗例には修正型電気けいれん療法を行う。

- ・当科外来では約 3600 人/月の診療にあたっており、全国 80 大学病院の中でも屈指の外来患者数であり、それだけに多彩なケースを診ることができる。

- ・総合病院のメンタルヘルス科として、約 60 人/月の患者に対しコンサルテーション・リエゾンサービス (CLS) を行っている。

これらの 3 つの柱がお互いを補完する形で診療が成り立っている。例えば、外来治療で

入院を要する状態になったら病棟にて治療をし、軽快したらまた外来治療に移行する。一方、CLS では内科、外科、救命救急センターなど様々な科から依頼を受け、他科との連携、精神科的治療にあたっているが、その中には身体状態が安定してからも精神科治療の継続が必要なケースも多く、その場合当科病棟または外来にての治療に移行する。

このような診療体制の特性から、うつ病や統合失調症といった主要疾患のみならず、不安障害、摂食障害や人格障害から器質性・症状性の精神障害まで、幅広い診療を行うことができる。

また、社会人大学院へ入学することにより、働きながら 4 年で学位を取得できる。現に、基幹病院である成仁病院からは 3 名の医師が学位を取得しており、平成 27 年度現在も 1 名、翌年度からも 1 名入学を予定している。

当科の診療スタンスは、基本的に「目の前にいる患者は全て診る」というところにある。新宿という立地、地域の医療機関との連携もあり、多彩かつ十分数の患者が外来に集まってくる。現代のストレス社会を生活している人間は様々なストレスにさらされ、そのために多彩な症状を呈することがある。一方、身体疾患において、常に「こころ」は影響を受け、様々な精神的反応や症状が生じる。こうした事例に対応するリエゾン精神医療は医学が高度になればなるほど大切なものとなり、その知識は全ての臨床医に必要と言える。将来、臨床医を目指す学生が身体疾患のみならず、精神面への配慮を常に行い、全人的医療を行っていただけることを望んでいる。

B 研修連携施設

- ① 施設名：医療法人社団 成仁病院
施設形態：民間病院
院長名：片山 成仁
指導責任者氏名：木内 健二郎
指導医人数：（ 6 ）人
精神科病床数：（ 114 ）床
疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	423	86
F1	107	47
F2	897	508
F3	909	345
F4 F50	521	76
F4 F7 F8 F9 F50	63	22
F6	36	16
その他	59	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

急性期精神疾患の短期集中治療と早期退院に特化した単科精神科病院である。入院精神科医療全般について学ぶことができる。平均在院日数は30日強で、スーパー救急病棟である。救急件数は都内随一であり、相談件数は月平均130件超である。また、m-ECT導入は年間2,000件を数える。

精神科ショート、デイ、デイナイトケアや、アウトリーチ事業も積極的に行っており、精神科訪問看護、訪問診療、相談支援事業など多角的に展開。再入院率を減らし、退院後の定期的な通院医療や地域生活への定着に力を入れている。

役割機能別業務体制、トリアージシステムをはじめとした独自のシステムを採用している。症例数は都内最多、指定医に必要な症例が網羅でき、早期に実力をつけることができる。

これまでの実績として過去3名の医師が当院在籍中に指定医を取得し、現在も1名申請中である。また、3名の医師が東京医科大学社会人大学院にて学位を取得している。H27年度より1名の後期研修医が、東京大学医学部付属病院こころの発達診療部にて児童精神および発達障害の研修中である。1名の医師が精神保健判定医の研修を受け、精神保健審判員として活動している。当院にて指定医を取得した医師のうち1名が、産業医として研修を受け、現在3会社を担当している。

*併設施設等：m-ECT、措置指定、応急指定、精神科ショート・デイ・デイナイトケア、精神科救急輪番、医療観察法指定通院医療機関、成仁介護老人

保健施設、亀有訪問看護ステーション、地域包括支援センター中川、成仁相談支援事業所、就労移行支援事業所（Job 庵）
週間計画、年間計画は別紙 4 に示す。

- ②施設名：三川病院
- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：錦織 靖
- ・指導責任者氏名：錦織 靖
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(9 6) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	2 2 0	1 3 5
F1	1 7	2 1
F2	1 2 7	8 1
F3	1 8 5	2 5
F4 F50	7 6	4
F4 F7 F8 F9 F50	1 1 3	7
F6	3	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当院は、認知症病棟(48床)、精神療養病棟(48床)、医療療養病棟(内科系)(98床)の計194床にて診療を行っている。障害者総合支援法による福祉施設運営も行ってため退院後の継続的総合的支援の実践経験も積むことができる。

精神系病棟の入院患者さんの症例は広く精神障害全般に亘り、措置入院も少数ではあるが受け入れている。時間をかければ広い分野の症例を経験可能。

認知症病棟は認知症系疾患全般の患者さんを受け入れている。BPSDへの対応、症状進行の可能な範囲の予防、生活機能回復訓練、専門的薬物療法の治療を経験できる。認知症患者さんは合併症をお持ちの方も多いため、身体的疾患の管理・対応を含めて治療しないと精神状態の安定が得難い場合も多い。本院は内科医との連携により、このような患者さんの診療も経験できる。

物質使用障害(アルコール)の方に対しては、アルコールリハビリテーションプログラムも施行している。入院診療研修として当初3カ月間、指導医と一緒に主治医として診療していただいている。その後、各疾患群ごとに選ばれた又は自分の関係する外来診察からの入院患者さんを担当して、診療上の指導を指導医から適時に受けていただく。

外来研修は、初期3カ月間は週一回指導医診察に同席していただき、診察直後に質問を受け、その要点を指導する。3カ月後、半日単位の外来を週に1単位程度担

当していただきながら、本人からの質疑に適時対応する。

また、希望により、認知症初期集中支援チーム、知的障害者更生施設や特別養護老人ホーム、障害者総合支援法によるグループホーム、就労支援施設、学校医や精神保健相談業務の説明と体験も可能なプログラムとなっている。

年間計画表、週間予定表をそれぞれ別紙5、別紙6に示す。

③ 施設名：睡眠総合ケアクリニック代々木・同第二

- ・施設形態：診療所
- ・院長名：中村真樹・(第二) 碓氷 章
- ・指導責任者氏名：井上雄一
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(0) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	2788	2067
F1	50	10
F2	10	2
F3	50	40
F4 F50	50	20
F4 F7 F8 F9 F50	300	200
F6	10	0
その他		

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

睡眠障害クリニック (入院は全て1泊の検査入院) である。

うつ病等他の障害も診ているが、主たる障害は睡眠障害 (不眠症、睡眠関連呼吸障害、過眠症、概日リズム睡眠覚醒障害、睡眠時随伴症、睡眠関連運動障害) である。年間外来患者数 (初診数)、入院患者数 (終夜睡眠ポリグラフィ件数) が上記のように豊富であり、睡眠障害全般を習得できる。

年間スケジュール、週間スケジュールをそれぞれ別紙7、別紙8に示す。

- ④ 施設名：立川メディカルセンター柏崎厚生病院
- ・施設形態：民間病院
 - ・院長名：松田ひろし
 - ・指導責任者氏名：吉濱 淳
 - ・指導医人数：(4) 人
 - ・精神科病床数：(240) 床
 - ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	334	101
F1	55	23
F2	447	143
F3	780	93
F4 F50	301	15
F4 F7 F8 F9 F50	415	33
F6	5	1
その他	84	4

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は新潟県長岡市にある立川総合病院を中心とする立川メディカルセンターに含まれる、精神科病床 240床（精神科急性期治療病棟34床、精神療養病棟106床、認知症治療病棟100床）、内科病床60床を有する病院である。認知症疾患医療センターの指定を新潟県より受けており、周辺には老人保健施設米山爽風苑、指定障害福祉サービス事業所自在館、認知症老人グループホーム五楽庵、地域包括支援センター茨内があり、訪問看護など多職種によるアウトリーチ活動にも力を入れている。また当院は平成16年度から実施された医師臨床研修制度の当初から、立川総合病院の協力型研修病院として多くの初期研修医や後期研修医の精神科臨床研修の場となってきた。現在も立川総合病院や柏崎総合医療センターの協力型臨床研修病院だけではなく、東京医科大学の地域医療研修施設にもなっており、新宿区の東京医大病院や八王子医療センター、茨城医療センターから毎月数名の初期研修医が研修を行っている。週間スケジュール、年間スケジュールをそれぞれ別紙9、別紙10に示す。

- ⑤施設名：協和病院
- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：椿 雅志
- ・指導責任者氏名：椿 雅志
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(179) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	15	11
F1	6	5
F2	62	145
F3	33	4
F4 F50	18	0
F4 F7 F8 F9 F50	0	12
F6	0	3
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科一般病棟 179 床にて診療を行っている。入院患者さんは統合失調症を中心として広く精神障害全般に亘る。八王子市にあり東京都の精神科救急後方当番システムに参加しており、また東京医科大学病院にて長期入院を要すると判断された患者さんを積極的に受け入れ、大学病院の若手医師が長期に亘って診療できるように配慮している。入院が長期となる高齢の患者さんは合併症を併発する 경우가多々あるが、当院は東京医科大学八王子医療センターとの連携診療を行っており、身体的に重症化した患者さんに対しては可能な限り速やかな対応が出来る体制となっている。また、長期入院患者さんに対する社会復帰援助にも力を注いでいる。入院中はSST（生活技能訓練）を行い社会復帰に向けた問題解決能力の向上を目指し、退院に向けたプログラムを実施している。病院近辺に退院した患者さんに対しては精神科訪問看護を実施し、服薬中断や再発の防止、地域生活への適応促進を図っている。

週間スケジュール、年間スケジュールを別紙 11 に示す。

- ⑥施設名：日本平病院
- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：加藤亮太
- ・指導責任者氏名：加藤亮太
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(189) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	26	31
F1	7	6
F2	128	163
F3	83	12
F4 F50	27	4
F4 F7 F8 F9 F50	3	1
F6	2	0
その他		

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 15 : 1 精神病棟 (39 床)、精神療養病棟 (150 床) の計 189 床にて診療を行っている。法人内には介護老人保健施設、就労継続支援 B 型事業所を有しており、有機的な連携が取れている。

当院の常勤医師は全員精神保健指定医で、うち 3 名は日本精神神経学会精神科専門医制度の指導医のため、研修において手厚いサポート体制にある。

入院患者の症例は、統合失調症・気分障害・認知症・器質性精神病など幅広く、措置入院の受け入れも行っている。入院患者への治療は精神科専門療法や薬物療法のほか、生活技能訓練 (SST) や作業療法 (OT) も経験できる。入院診療研修では、初期は指導医の診察に同席し指導を受け、その後、各症患者群の患者を担当し、診療上の指導を指導医より適時受けて頂く。

外来においては、精神科デイケアと精神科訪問看護を行っているため、通常の外来診察以外にも経験が可能である。なお、外来の研修では指導医診察に同席し要点の指導を受ける。

その他、介護老人保健施設入所者の診察や、精神保健相談への同席も可能なプログラムとなっている。週間スケジュール、年間スケジュールをそれぞれ別紙 12、別紙 13 に示す。

⑦施設名：富士心身リハビリテーション研究所附属病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：高橋 伸忠
- ・指導責任者名：引場 智
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 210 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	11	20
F1	2	3
F2	255	130
F3	343	67
F4 F50	95	7
F4 F7 F8 F9 F50	19	1
F6	1	2
その他	172	46

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は1970年開設以来、長年にわたり精神神経科を主とした診療を行い、現在常勤4名・非常勤10名、計14名の医師が所属している。

病棟は、精神一般病棟(45床)が2病棟、精神療養病棟(60床)が1病棟、認知症治療病棟(60床)が1病棟、計210床の入院施設がある。

症例としては幅広く、精神障害全般において受入れており、精神保健指定医・精神科専門医などの取得に適した症例を経験することや、認知症臨床専門医の医師や認知症者支援医療機関ネットワークで活動する医師が指導医としてあたるため、認知症に関しても専門的な知識の習得ができる。指導医の下で入院患者を受け持ち、臨床精神科医に求められる面接や診断、治療についての基礎的な技術が学べる。

外来診察は月曜から金曜日と、会社勤めの患者さんのため月 1 回の日曜外来、そしてサテライトクリニックでも診察を行っていることから、指導医の外来の診

療、薬物療法、精神療法、家族への対応などについて学んだあと、初診患者さんの相談や予診を行っていく。

一般的な精神疾患や慢性精神疾患の他、措置鑑定、簡易鑑定などの機会もあり、指導医の下、鑑定に同席あるいは助手として鑑定にも携わる。措置鑑定での症例は、臨床精神科医としての総合的な能力を身につけられる。

入院から退院、また退院後の患者さんの社会復帰と地域移行のため、作業療法、精神科デイケア(大規模)、精神科訪問指導も行っている他、病院と同一敷地に介護老人保健施設と、グループホームを併設していることもあり、患者さん本人並びにご家族の意向に沿った提案も可能であり、退院後も治療を通じて一貫した経過観察ができる構成になっている。

症例検討会や入退院の報告会を定期的で開催し、それを医局研究会や各種学会発表につなげる意向があれば、そのための論文作成などの指導も行う。

週間スケジュール、年間スケジュールをそれぞれ別紙 14、別紙 15 に示す。

- ⑧施設名：医療法人滝田会 丸山荘病院
- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：瀧田 泰彦
- ・指導責任者氏名：瀧田 泰彦
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(194) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1 2	2 7
F1	1 3	2 5
F2	9 8	1 5 4
F3	4 4	9
F4 F50	2 7	0
F4 F7 F8 F9 F50	8 4	2 4
F6	7	1
その他		

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は精神科病棟74床及び精神科療養病棟120床を有している。その内10床は県の指定病床であり応急入院指定も受けている。

輪番制精神科救急制度にも参画、医療観察法の鑑定入院、外来病院にも指定されている。

更に茨城県では認知症初期集中支援制度を先駆的に推進している石岡市のサポート医も引き受けている。作業療法棟、社会復帰施設としてグループホームを併設している。

従って、ICD-10のカテゴリー中すべての（児童、発達障害は確定診断後）疾病を経験可能である。

又、急性期から慢性期に至る時系列での症例経験も出来る。

加えて夜間、休日の緊急診察入院、医療観察法における鑑定入院、通院措置入院、医療保護入院などの非自発的入院、認知症初期集中支援制度における未受診例、医療中断例を治療につなげるケース等々、精神科ではほとんどの治療場面が経験可能である。

又、障害者総合支援法を利用した社会復帰も経験できる。

これらすべての症例に於いて指導医及び非常勤専門医の指導助言のもと、主治医となることができる。

週間計画、年間計画をそれぞれ別紙16、別紙17に示す。

- ⑨施設名：立正佼成会附属佼成病院
- ・施設形態：総合病院
 - ・院長名：甲能 直幸
 - ・指導責任者氏名：中野 正寛
 - ・指導医人数：(1) 人
 - ・精神科病床数：(0) 床
 - ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	79	104
F1	11	9
F2	53	4
F3	100	17
F4 F50	4	0
F4 F7 F8 F9 F50	192	36
F6	10	2
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、宗教法人立正佼成会の社会貢献事業の一環として昭和 27 年に東京都中野区に開設された。平成 26 年 9 月に一般病床 300 床、緩和ケア病床 20 床、療養病床 20 床を有する杉並区の新病院に移転し、現在に至る。当院は 27 診療科を有し、杉並区の中でも比較的高齢者が多い地域にあり、その地域に根ざす総合病院である。総合病院の中にある精神科として他診療科、地域の医療機関や施設などと連携し、身体的治療や看護、介護などとの兼ね合いを重視し、こころと体の健康の支えとなることを目指している。当科は常勤の精神科医 1 人と非常勤の精神科医 1 名の体制であり、必要に応じて臨床心理士に患者さんの心理学的側面の評価を依頼し、精神状態の把握や治療方針の判断の際の支援を得たり、当科診療とともに臨床心理士のカウンセリングを併用したりして連携しながら診療を行っている。当院には精神科病床がなく、外来診療と他診療科の入院患者さんが抱える精神的問題への対応が主たる業務である。外来診療では気分障害や神経症性障害、ストレス関連障害、認知症の行動・心理症状(BPSD)などへの対応が主であり、他診療科の入院患者さんには、身体疾患や環境変化などに伴うせん妄の出現や BPSD の悪化、うつ状態の対応、もともと抱えている精神科疾患の対応などを行っている。このような環境の中で、特に老年期の精神医療やコンサルテーション・リエゾン精神医療を中心に、無床総合病院精神科において精神科医が担う役割について学ぶことができる。

週間予定表、年間予定表を別紙 18 に示す。

- ⑩施設名： 前沢病院
- ・施設形態： 単科精神科病院
- ・院長名： 前沢 孝通
- ・指導責任者氏名： 前沢 孝通
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(105) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	20	22
F1	2	0
F2	225	122
F3	101	15
F4 F50	6	3
F4 F7 F8 F9 F50	86	1
F6	1	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

週間計画、年間計画はそれぞれ別紙 19、別紙 20 に示す。

当法人は、栃木県の南端に位置し、別紙 21 に記載している通り、精神科病院を中核に各種関連施設が整備されており、主に「維持・回復期にある精神疾患患者の社会復帰・地域生活支援」と「認知症高齢者の治療と介護」に力を入れて取り組んでいる。

それぞれの事業の専門性を生かしながら、様々な形で在宅療養から入院治療までのサポートを実践している。

- ①施設名：西八王子病院
- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：三根 芳明
- ・指導責任者氏名：三根 芳明
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(182) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	33	17
F1	11	5
F2	166	80
F3	225	108
F4 F50	74	36
F4 F7 F8 F9 F50	0	0
F6	11	5
その他	8	4

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院では 1998 年よりストレスケア病棟を開設しうつ病・うつ状態に特化したアメニティと治療プログラム及びチーム医療を実践している。急性期治療病棟では精神科一般の入院治療を行っている。リエゾン病棟(内科病棟)を併設し、腎透析治療が必要な精神疾患にも対応している。また自立生活訓練施設を設置し外来治療に加え、デイケア・訪問看護を行い地域精神医療に力を入れている。

- ⑫施設名 : 川口会病院
- ・施設形態 : 精神科単科病院 ・ 公的単科精神科病院 ・ 公的総合病院
 独立行政法人 ・ 国立病院機構 などから選択してください。
- ・院長名 : 宮坂 佳幸
- ・指導責任者氏名 : 宮坂 佳幸
- ・指導医人数 : (1人) 常勤換算
- ・精神科病床数 : (220) 床
- ・疾患別入院数・外来数 :

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	180	90
F1	16	8
F2	414	207
F3	102	51
F4 F50	6	0
F4 F7 F8 F9 F50	5	0
F6	3	0
その他	8	4

施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当院は、認知症治療病棟入院料 I (60 床)、精神療養病棟入院料 (60 床)、(40 床)、精神病棟入院基本料 15 : 1 (60 床) の計 220 床を有しており、8 室の保護室と 6 室のストレスケア個室の設置がある。精神科作業療法や SST、CP による心理検査や認知行動療法にも力を入れており、コメディカルと連携を取りながらの診療を経験できる。外来診療に加え、精神科デイケア (大規模)、ショートケア (大規模)、訪問看護にも取り組んでいる。

また、介護保険法による介護老人保健施設を併設しており、継続的総合支援の実績も積むことができる。

指定病床 10 床を有する指定病院として指定を受けているほか、輪番対応型精神科救急施設として輪番事業の委託も受けているため、入院患者さんの症例は広く精神障害全般にわたり、措置入院も受け入れている。時間をかければ、広い分野の症例を経験可能である。

認知症疾患センターとの連携により、認知症治療病棟は認知症系疾患全般の患者さんを受け入れている。BPSD への対応、症状進行の可能な範囲の予防、生活機能回復訓練、専門的薬物療法の治療を経験できる。認知症患者さんは合併症をお持ちの方も多。身体的疾患の管理・対応を含めて治療しないと精神状態の安定が難しい場合も多い。当院では、非常勤内科医との連携により、このような患者さんの診療も経験できる。

また、当院は医療観察法の指定通院医療機関としての指定も受けており、平成 29 年度には、1 名の対象患者の通院を支援する予定がある。

平成 29 年度 研修プログラム

- I. 患者及び家族との面接
- ① 講義を受ける。

- ② 予診をとり、次いで指導医の診察を見学する。
- ③ 単独で患者を診察し、診療録へ記載し、報告に基づいて指導を受ける。
- ④ 教材及びビデオを用いて学ぶ。

II. 疾患の概念と病態の理解

- ① 講義、講演などを聴いて情報を得る。
- ② 学会に出席して情報を得る。

III. 診断と治療計画

- ① 担当している患者の診断及び治療についての助言と指導を受ける。
- ② 退院時に症例について要約し、指導医の校閲を受ける。
- ③ 教材及びビデオを用いて学ぶ。

IV. 補助検査法

- ① 講義を受ける。
- ② 教材及びビデオを用いて学ぶ。

V. 薬物・身体療法

- ① 講義を受ける。
- ② 経験症例により薬物療法を学ぶ。
- ③ 指導医からチェックを受ける。
- ④ 教材及びビデオを用いて学ぶ。

VI. 精神療法

- ① 患者を担当し、指導医より定期的に指導を受ける。
- ② 指導医が家族と面接している様子を見学する。
- ③ 家族と単独で面接し、その内容を指導医に報告して助言を受ける。
- ④ 教材及びビデオを用いて学ぶ。

VII. 心理社会的療法、精神科リハビリテーション、及び地域精神医療・保健・福祉

- ① デイケア、社会復帰病棟などで治療活動に参加する。
- ② 生活指導、作業療法、レクリエーション療法を見学し活動に参加する。
- ③ 小規模作業所、授産施設、生活訓練施設、福祉ホーム、グループホーム、地域活動支援センターなどを見学し活動に参加する。
- ④ 各種制度利用に関する公式文書を作成する。

VIII. 精神科救急

- ① 日直、宿直で遭遇する救急患者を指導医の指示のもとに診察する。

IX. リエゾン・コンサルテーション精神医学

- ① 教材及びビデオを用いて学ぶ。

X. 法と精神医学

- ① 精神保健指定医の措置診察を見学する。
- ② 成年後見制度については指導医の指導の下に診断書を作成する。(最低1件)
- ③ 教材及びビデオを用いて学ぶ。

XI. 医の倫理

- ① 指導医の臨床姿勢を観察することにより、日常の臨床で、自らの行動を「医の倫理」の視点から点検する態度を身につける。

⑬施設名：東京医科大学茨城医療センター

施設形態：大学付属病院

院長名：小林 正貴

指導責任者氏名：榎屋 二郎

指導医人数：(1) 人

精神科病床数：(0) 床

疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	57	
F1	3	
F2	63	
F3	116	
F4 F50	35	
F4 F7 F8 F9 F50	69	
F6	1	
その他	7	

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当研修施設は、茨城県県南地域の地域医療中核病院の一角を成すと共に、大学付属の総合病院として、また地域がん診療連携拠点病院として、高度な水準の臨床・教育・研究を推進する使命を持って業務にあたっている。地域医療機関との病診連携により精神科外来治療の研修機会が多い。精神科入院治療については、当研修施設は精神科病床を持たない総合病院精神科であるため、精神科入院治療が必要な症例の診療や精神科入院治療の研修に当たっては、当大学の付属病院本院にあたる東京医科大学病院との連携を軸に、地域の日本精神神経学会研修施設である複数の病院とも連携して行っている。総合病院精神科として、また地域がん診療連携拠点病院精神科として、コンサルテーション・リエゾン業務の研修機会が多い。

うつ病や統合失調症をはじめ、摂食障害や人格障害の診療から 器質性・症状性の精神障害に対する診療など幅広く研修を行うことができる。また児童思春期症例が多いことも特徴である。指導医として子どものこころ専門医機構専門医が在籍しているため、自閉症スペクトラムや注意欠如多動性障害などの神経発達障害症例も多く学べるのが特徴である。

指導医の下で各種の精神科医療に従事し、また、症例検討会・ケーススーパービジョン（外来症例やリエゾン症例などの個別症例指導）を通じて、精神科医としての態度（姿勢）、知識、技能の習得、研鑽に努め、精神科専門医を目指すものとする。

① 週間計画、年間計画は別紙 22 に示す。

⑭施設名：東京医科大学八王子医療センター
施設形態：大学病院

院長名：池田 寿昭

指導責任者氏名：藤村 洋太

指導医人数：(2) 人

精神科病床数：(0) 床

疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)	②
F0	0	45	③
F1	0	56	④
F2	0	72	⑤
F3	0	76	⑥
F4 F50	0	52	⑦
F4 F7 F8 F9 F50	0	30	⑧
F6	0	68	⑨
その他	11	24	⑩
			⑪
			⑫
			⑬
			⑭
			⑮

・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

東京医科大学八王子医療センターは八王子市の人口約 56 万人を含めた南多摩医療圏 142 万人の中核病院として、許可病床数 610 床および 34 の標榜科を有する医療機関である。当センターは、三次救命救急センターとがん診療連携拠点病院の指定を受けており、また生体肝移植や生体腎移植などの移植医療も盛んに行われている。

当センターは精神科病床を有しない。メンタルヘルス科では、身体疾患の治療で入院している患者が入院中に来たしやうい、不眠、不安、抑うつ、せん妄などの精神・身体症状を対象として、各診療科の医師やスタッフと協力してチーム医療を行い、本来の身体疾患の治療が滞りなくスムーズに行えるよう心身両面での回復の援助を行っている。また、様々な精神科疾患を有する患者が身体疾患に罹患し当センターでの入院治療を受ける際に当科も並診し、適宜精神科専門医の視点による治療的介入を行っている。そのため、当院での研修ではコンサルテーション・リエゾン精神医療全般について学ぶことができる。また、当センターには広域で大勢の人口を有する医療圏域を背景とした三次救命救急センターがあり、自殺未遂や自傷行為で入院する患者が多いため、そのような行動を呈する患者への重要な初期対応を学ぶことができる。年間計画・週間計画を別紙 23 で示す。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目：基幹病院で週4～5日、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、神経症性障害、摂食障害、人格障害、器質性精神障害等の患者等を主に入院で受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。また、外来では主に予約外診療、救急診療を担当しするとともに、初診外来の陪席を行う。それらにより基本的な薬物療法、精神療法を学ぶとともに、プライマリケアのありようを学ぶ。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。また、週に1日は連携施設にて勤務する。基幹病院と同様に、指導医と一緒に病棟、外来業務に従事するとともに、地域に密着した医療について学ぶ。院内研究会や学会で発表・討論する。

2年目：基幹病院及び連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。

3年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」（別紙）、「研修記録簿」（別紙）を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

月曜 12 時より抄読会を行い、最新のエビデンスに基づき見聞を広めていく。

4) ローテーションモデル

典型的には1～2年目に東京医科大学病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。また、週に1日、連携施設に勤務し、地域医療を実践する。この中で、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。3年目には基幹病院に残る場合と連携施設に派遣される場合とに分かれる。一般的には地域密着型の病院に派遣になることが多く、そこで精神科専門医だけでなく精神保健指定医の症例を集めることが可能である。これら3年間のローテート順については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。

5) 研修の週間・年間計画

別紙 2～23 を参照。

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

委員長 東京医科大学病院 井上 猛
副委員長 東京医科大学病院 市来 真彦
東京医科大学病院 佐藤光彦、松本恭典、小野泰之
坂井 俊之（臨床心理士）、磯江 典子（看護師）
睡眠総合ケアクリニック代々木・同第二 井上 雄一
日本平病院 加藤 亮太
医療法人社団成仁 成仁病院 木内 健二郎
立川メディカルセンター柏崎厚生病院 吉濱 淳
丸山荘病院 瀧田 泰彦
協和病院 椿 雅志
立正佼成会附属佼成病院 中野 正寛
三川病院 錦織 靖
富士心身リハビリテーション病院 引場 智

前沢病院 前沢 孝通
西八王子病院 三根 芳明
川口会病院 宮坂 佳幸
東京医科大学茨城医療センター 榎屋二郎
東京医科大学八王子医療センター 藤村洋太

- ・プログラム統括責任者
井上 猛
- ・連携施設における委員会組織
各連携病院の指導責任者及び実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

委員長 東京医科大学病院 井上 猛
副委員長 東京医科大学病院 市来 真彦
東京医科大学病院 佐藤光彦、松本恭典、小野泰之
成仁病院 木内健二郎
三川病院 錦織 靖
睡眠総合ケアクリニック代々木・同第二 井上雄一
立川メディカルセンター柏崎厚生病院 吉濱 淳
丸山荘病院 瀧田 泰彦
協和病院 椿 雅志
日本平病院 加藤亮太
富士心身リハビリテーション病院 引場 智
前沢病院 前沢 孝通
立正佼成会附属佼成病院 中野 正寛
西八王子病院 三根 芳明
川口会病院 宮坂 佳幸
東京医科大学茨城医療センター 榎屋二郎
東京医科大学八王子医療センター 藤村洋太

2) 評価時期と評価方法

- ・3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」（別紙）に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

東京医科大学病院にて専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル（別紙）
- 指導医マニュアル（別紙）
- ・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形式的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形式的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形式的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形式的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形式的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

東京医科大学病院；

勤務：平日日勤 9:00～17:10

第1、3、5 土曜日 9:00～12:10

当直勤務： 17:10～翌9:00

（第1、3、5 土曜日は12:10～9:00）

休日：日曜日、第2、4 土曜日、祝祭日

病棟指導医と相談のうえ、業務に支障のない範囲で1週間の夏季休暇を含む計2週間の休暇を与える。

その他、慶弔休暇、産前産後休暇、介護休暇、育児休業など就業規則に規定されたものについては請求に応じて付与できる。

連携施設に関しては各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

東京医科大学病院；

年1回の職員健康診断を実施する。

産業医による心身の健康管理を実施し異常の早期発見に努める。

連携施設に関しては各施設の労務管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

1～2年目

東京医科大学病院 メンタルヘルス科にて研修
(週1日連携病院で勤務)

3年目

連携病院に出張
(勤務体系は連携病院と
の契約による)

東京医科大学病院で研修
継続
(勤務体系は1～2年目
に準じる)

別紙2. 東京医科大学病院 週間予定

	月	火	水	木	金	土
8:45～	病棟カンファランス					
9:00～	予診 外来 陪席	予約外診療	病棟業務 リエゾン	関連病院 にて勤務	予約外診療	病棟業務 リエゾン
12:00	抄読会参加	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:00 ～	病棟業務	病棟業務 リエゾン	外来業務	関連病院 にて勤務	病棟業務 リエゾン	カンファランス
14:00 ～	教授回診					
15:00 ～	病棟業務 リエゾン	リエゾン 病棟業務	外来業務	関連病院 にて勤務	リエゾン 病棟業務	
16:30 ～	症例検討会・ 抄読会参加	リエゾン 病棟業務			リエゾン 病棟業務	
夜間			関連病院にて 当直		救急診療 夜間病棟診療	

土曜日は第 2・4 土曜日は休診日

その他日曜日、祝日に当直有

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。
原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

別紙3 東京医科大学病院 年間予定

4月	オリエンテーション 院内クルーズ参加（5月以降も適宜実施、計12コマ）
5月	
6月	院内安全研修参加 日本精神神経学会学術総会参加（発表）
7月	日本神経精神薬理学会年会（任意）
8月	
9月	
10月	
11月	院内安全研修参加 東京精神医学会学術集会参加
12月	
1月	社会精神医学会（任意）
2月	
3月	東京精神医学会学術集会参加

院内研修は他にも不定期に実施される（診療報酬、ハラスメント等）。

学会には指導医と相談の上で参加不参加を決める。業務に支障のない範囲で他の学会にも積極的に参加することが望まれる。

別紙4 ≪研修計画：成仁病院≫

週間計画

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来予診	救急診療	外来陪席 (再診)	外来陪席 (初診)	救急診療 訪問診療
午後	病棟業務 m-ECT	外来陪席 (再診)	病棟業務 m-ECT	医局会 回診	病棟業務 m-ECT 訪問診療
17時以降		症例検討会			当直 (月2回)

年間計画

4月	オリエンテーション
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	日本精神科医学学術大会 東京都精神科病院協会学会
11月	
12月	
1月	
2月	足立区医学会
3月	

別紙5

三川病院 年間計画

4月	オリエンテーション
5月	院内クルズス参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 山形県精神科医の会参加
7月	庄内地区精神科集談会参加
8月	適正就学支援に関する要点研修
9月	院内研究参加
10月	東北精神神経学会参加
11月	山形心身医学研究会参加 山形精神病理・精神療法研究会参加
12月	庄内地区精神科集談会参加
1月	
2月	三川町うつ病予防対策事業同行参加
3月	山形認知症研究会参加 研修プログラム評価報告書の作成

別紙6<三川病院>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	入退院報告 ミーティング 病棟診察	外来診察(予 診) 指導医診察陪 席	病棟診察、もし くは治療手技 指導・脳波検 査・心理検査陪 席	デイケア診察 陪席	外来診察(予 診) 指導医診察陪 席、もしくは病 棟診察
午後	病棟診察 (リエゾン)	病棟診察 抄読会	病棟診察(リエ ゾン) 障害者総合支 援法・介護保険 関係の診察陪 席	アルコール 勉強会参加 (隔週) 病棟診察	知的障害施設 診察 (月1回)
17時以後				外部講師講 演会参加 (月1回)	

別紙7 週間スケジュール

睡眠総合ケアクリニック代々木・同第二

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
9:15～10:00		症例検討会	症例検討会	症例検討会	
10:00～12:00		外来初診	外来初診	外来初診	
12:15～13:00		抄読会	運営会議		
13:00～17:00	外来再診	外来再診	外来再診	外来再診	外来再診
18:00～20:30	外来再診				外来再診

別紙8 年間スケジュール

睡眠総合ケアクリニック代々木・同第二

4月	オリエンテーション SR2・3前年研修報告書提出／指導医の指導実績報告提出
5月	
6月	日本精神神経学会
7月	日本睡眠学会
8月	
9月	
10月	
11月	日本臨床神経生理学会
12月	
1月	
2月	
3月	SR2・3研修報告書作成、研修プログラム評価報告書作成

別紙9

立川メディカルセンター柏崎厚生病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	院長外来 陪席 新患予診	病棟業務	病棟業務	デイケア 業務	院長外来 陪席 新患予診	院長外来 陪席 新患予診
午後	12:00 薬 剤説明会 (月2回) 12:30 入 院報告会 議・医局 会 病棟業務 17:00 入 退所判定 会議	関連施設 業務	病棟業務	12:30 院 内勉強会 病棟業務	病棟業務	
	17:10 総 合主任会 議(月一 回) 17:30 感染症対 策委員会 (月一 回)	8:30 医 療安全委 員会(月 一回)	当直(週1 回)			

別紙 10

年間スケジュール

4月		柏崎臨床精神医学研究会参加	
5月			
6月	日本精神神経学会参加	柏崎臨床精神医学研究会参加	東京医科大学医学会総会参加
7月			
8月		柏崎臨床精神医学研究会参加	
9月			
10月	日本精神医学会参加	柏崎臨床精神医学研究会参加	新潟精神医学会参加
11月			東京医科大学医学会総会参加
12月		柏崎臨床精神医学研究会参加	
1月			
2月	新潟県GHP研究会参加	精神鑑定事例検討会参加	

別紙 1 1

協和病院週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 作業療法
午後	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 病棟カンファレンス参加	訪問看護カンファレンス参加 生活技能訓練 院内研修参加 (不定期)	病棟診察 外来診察 作業療法	病棟診察 外来診察 作業療法

協和病院年間スケジュール

4月	オリエンテーション 院内研修参加
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 院内研修参加
7月	院内研修参加
8月	
9月	院内研修参加
10月	院内研修参加
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	院内研修参加

その他、感染対策委員会及び安全対策委員会を随時開催し、医療環境の充実を図っている。

<日本平病院>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	外来診察 指導医診察陪席	デイケア診察陪席 外来診察	外来診察 指導医診察陪席	指導医診察陪席	外来診察 指導医診察陪席
午後	病棟診察	病棟診察	病棟診察 老健診察陪席(月2回) 保健相談陪席(月1回)	病棟診察 脳波検査陪席	病棟診察 障害者手帳及び自立支援医療 判定会陪席

別紙 13:
年間研修計画

日本平病院

4月	オリエンテーション
5月	院内クルズス参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	院内クルズス参加
9月	日本精神科医学会学術大会参加
10月	日本デイケア学会年次大会参加
11月	院内クルズス参加
12月	
1月	

2月	院内クルズス参加
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙 14: 研修の週間・年間研修計画(連携) < 富士心身リハビリテーション研究所附属病院 >

・週間

	月	火	水	木	金
午前	精神科デイ 診察陪席	外来 指導医診察陪席・ 予診 (脳波・心理検査)	外来 指導医診察陪席・ 予診	病棟診察 (リエゾン)	外来 指導医診察陪席・ 予診
午後	サテライトCにて 指導医診察陪席・ 予診	病棟診察 症例検討会 (随時) 各種委員会 (月1回)	病棟診察 特別養護老人ホ- ム診察(月1回)	特別支援学校・障 害者施設診察 (隔週)	病棟診察 (作業療法)
17時 以後		薬物療法勉強会 (月1回)			

・年間

4月	・オリエンテーション
5月	・院内クルズ参加
6月	・日本精神神経学会学術総会参加 ・静岡県東部精神科医会参加 ・精神保健に関する技術研修参加（発達障害早期総合支援研修）
7月	・富士・富士宮 物忘れ検討会参加 ・東部臨床精神科懇親会学術集会参加 ・アルコール依存症臨床医等研修参加
8月	・静岡県精神保健福祉事業講座参加
9月	・精神保健に関する技術研修参加（自殺対策相談支援研修）
10月	・院内研究参加
11月	・富士・富士宮 物忘れ検討会参加 ・静岡県東部精神科医会参加
12月	
1月	・精神保健に関する技術研修参加（発達障害支援医学研修）
2月	・静岡県かかりつけ医うつ病対応力向上研修会参加
3月	・東部臨床精神科懇親会学術集会参加 ・富士・富士宮 物忘れ検討会参加 ・研修プログラム評価報告書の作成

別紙 16
週間計画

丸山荘病院

	月曜日	火曜日	水曜日	金曜日
午前	入退院報告ミーティング 病棟診察・精神科病棟	病棟診察・精神科病棟 指導医診察陪席	外来診察	外来診察・初診患者 指導医診察陪席
午後	外来診察・再診患者 指導医診察陪席	外来診察・再診患者	病棟診察・療養病棟	病棟診察・療養病棟
17時以降		抄読会 月1回	当直	症例検討会 月2回

別紙 17 年間計画

丸山荘病院

4月	オリエンテーション 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席 知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行
5月	認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席 知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
6月	日本精神神経学会参加 知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
7月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
8月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
9月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
10月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
11月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
12月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
1月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
2月	知的障害者入所施設嘱託医訪問同行・生活保護法による救護施設嘱託医訪問同行 認知症初期集中支援チーム員会議にポート医と陪席
3月	石岡市自立支援協議会陪席 研修プログラム評価報告書の作成

医療保護入院者退院支援委員会、行動制限最小化委員会に参加可能

別紙 18

<立正佼成会附属佼成病院>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来診察	外来診察	外来診察	病棟診察 (リエゾン)	外来診察	外来診察
午後	外来診察 (予診) 病棟診察 (リエゾン)	外来診察 (予診) 病棟診察 (リエゾン)	外来診察 (予診) 病棟診察 (リエゾン)	病棟診察 (リエゾン)	外来診療 (予診) 病棟診察 (リエゾン)	

<立正佼成会附属佼成病院>

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加 日本老年精神医学会参加
7月	
8月	
9月	日本サイコオンコロジー学会参加
10月	
11月	日本総合病院精神医学会参加
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

別紙 19

週間計画

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	日直業務 (担当日のみ)
	(予診)	(予診)	(予診)	(予診)	(予診)	(予診)	
	(陪席)	(陪席)	(陪席)	(陪席)	(陪席)	(陪席)	
	一部入院業務	一部入院業務	一部入院業務	一部入院業務	一部入院業務	一部入院業務	
	その他	その他	その他	その他	その他	その他	
午後	入院業務	入院業務	入院業務	入院業務	入院業務	入院業務	日直業務 (担当日のみ)
	作業療法・SST や デイケア等のプログラムの参加	作業療法・SST や デイケア等のプログラムの参加	作業療法・SST や デイケア等のプログラムの参加	作業療法・SST や デイケア等のプログラムの参加	作業療法・SST や デイケア等のプログラムの参加	作業療法・SST や デイケア等のプログラムの参加	
	併設介護老人保健施設への回診	ケース検討会	併設介護老人保健施設への回診	併設介護老人保健施設への回診	併設介護老人保健施設への回診	併設介護老人保健施設への回診	
		医局会 (診療管理会議)	法人内認知症グループホームへの訪問診療		法人内認知症グループホームへの訪問診療	法人内認知症グループホームへの訪問診療	
	その他	その他	その他	その他	その他	その他	
夜間 (17:30以降)	夜間当直業務 (担当日のみ)	夜間当直業務 (担当日のみ)	夜間当直業務 (担当日のみ)	夜間当直業務 (担当日のみ)	夜間当直業務 (担当日のみ)	夜間当直業務 (担当日のみ)	夜間当直業務 (担当日のみ)

別紙 20

年間計画

4 月	オリエンテーション
5 月	
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	
8 月	
9 月	日本精神科医学会学術大会参加
10 月	
11 月	
12 月	
1 月	
2 月	
3 月	

※研修に関しては、上記の研修の他、法人が必要と認めた院内外の各研修に参加するものとする

[前沢病院]

1. 運營業務

- ☆ ① 入院業務（105床）
 - 60床（第一病棟）・・精神療養病棟入院料 算定
 - 45床（第二病棟）・・精神病棟入院基本料 15対1（旧3対1看護配置）算定
 - 看護配置加算（正看護師比率70%以上）算定
 - 看護補助加算1（6対1）算定
- ☆ ② 外来業務（1日平均70名前後）
- ☆ ③ 在宅患者訪問診療（9名）
 - ④精神科訪問看護・指導（平均65名前後）
- ☆ ⑤ 精神科デイケア（大規模・定員50名）（1日平均10名前後）
- ☆ ⑥ 精神科デイ・ナイトケア（定員50名）（1日平均35名前後）
- ☆ ⑦ 精神科ナイトケア（定員20名）（1日平均4名前後）
- ☆ ⑧ 精神科ショートケア（大規模・定員50名）
 - ⑨ 精神科作業療法（平均85名前後）
 - ⑩ 心身喪失者等医療観察法：指定通院医療機関の受託

[精神障害者社会復帰施設関連]

1. 運營業務

- ① 地域活動支援センター
 - (1) 居宅介護事業（精神・身体・知的障害者へのホームヘルプサービス）
 - (2) 移動支援事業
 - (3) 相談支援事業
 - (4) 地域活動支援センター事業
- ☆ 介護サービス包括型共同生活援助（旧ケアホーム：定員20名）
- ☆ ③ 外部サービス利用型共同生活援助（精神障害者グループホーム第1：定員7名）
- ☆ ④ 外部サービス利用型共同生活援助（精神障害者グループホーム第2：定員7名）
- ☆ ⑤ 共同住居（精神障害者準グループホーム：定員6名）

[介護老人保健施設 グリーンホーム]

1. 運營業務

- ☆ ① 施設入所（定員38名）（平均要介護度3.6）
- ☆ ② 短期入所療養介護・介護予防短期入所療養介護（ショートステイ）（平均要介護度3.2）
- ☆ ③ 通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション（デイケア：定員10名）
 - （平均要介護度2.8）（1日平均8名前後）
- ④ 訪問看護
- ⑤ 訪問介護・介護予防訪問介護（ホームヘルプサービス）（平均要介護度2.4）

[居宅介護支援事業者 グリーンホームケアプランセンター]

- ① 居宅介護支援事業・介護予防支援事業（ケアプラン作成他）

[認知症高齢者グループホーム 陽だまり]

- ☆ ① 認知症対応型共同生活介護（1ユニット定員9名）（平均要介護度2.4）
- ☆ ② 認知症対応型通所介護（定員3名）

事業計画

1. 障害福祉サービス：就労移行支援、就労継続支援B型の開設
3. 外来業務の拡充：外来作業療法、専門外来の開設、訪問診療の拡充
4. サービス付高齢者向け住宅等の高齢者住宅事業の開設

平成28年2月現在

別紙 22 東京医科大学茨城医療センター 年間予定

4月	オリエンテーション 院内クルーズ参加（5月以降も適宜実施） 院内安全研修参加
5月	院内安全研修参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 院内安全研修参加
7月	院内安全研修参加
8月	院内安全研修参加
9月	院内安全研修参加
10月	院内安全研修参加
11月	東京精神医学会学術集会参加
12月	院内安全研修参加
1月	院内安全研修参加
2月	院内安全研修参加
3月	東京精神医学会学術集会参加 院内安全研修参加 研修プログラム評価報告書の作成

院内研修は他にも不定期に実施される（診療報酬、ハラスメント等）。

各種学会には指導医と相談の上で参加不参加を決める。業務に支障のない範囲で他の学会にも積極的に参加することが望まれる。

週間予定（概略）

	月	火	水	木	金	土
8:30-	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導 病棟カンファランス)	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導	リエゾン業務 個別症例指導
12:00-	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	
13:00-	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導	オンコールによる救急診療 やリエゾン診療
15:00-	外来業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 病棟業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 病棟業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 病棟業務 リエゾン業務 個別症例指導	外来業務 病棟業務 リエゾン業務 個別症例指導	
16:00-	リエゾン報告 症例検討会 抄読会					
夜間	オンコールによる救急診療やリエゾン診療	オンコールによる救急診療やリエゾン診療	オンコールによる救急診療やリエゾン診療	オンコールによる救急診療やリエゾン診療	オンコールによる救急診療やリエゾン診療	オンコールによる救急診療やリエゾン診療

土曜日：午前業務

別紙23 東京医科大学八王子医療センター 年間予定

4月	オリエンテーション 院内クルズス参加
5月	院内クルズス参加
6月	院内安全研修参加 日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本睡眠学会学術総会参加（任意）
8月	院内クルズス参加
9月	院内クルズス参加
10月	院内クルズス参加
11月	院内安全研修参加 東京精神医学会学術集会参加
12月	日本総合病院精神医学会学術総会参加（任意）
1月	社会精神医学会参加（任意）
2月	院内クルズス参加
3月	東京精神医学会学術集会参加

院内研修は他にも不定期に実施される。

学会には指導医と相談の上で参加不参加を決める。業務に支障のない範囲で他の学会にも積極的に参加することが望まれる。

<東京医科大学八王子医療センター 週間予定>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)	生体臓器移植レシピエント診察	関連病院にてパート勤務	生体臓器移植ドナー診察	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)
午後	回診 多職種カンファレンス	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)	関連病院にてパート勤務	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)	病棟診察 救命救急センター診察 (リエゾン)	

土曜日は第 2・4 土曜日は休診日